

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：食物栄養学科

資格：教授

氏名：川村 雅夫

研究分野	研究内容のキーワード
1. 給食経営管理学 2. 食品保健	1. 給食管理、食品衛生マニュアル、献立作成 2. 健康づくり、栄養管理
学位	最終学歴
修士（医科学）	和歌山県立医科大学 医科学研究科 医科学専攻 修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. キューピー株式会社及びフードデリ共催衛生研修会	2018年3月8日	タマゴの衛生管理について
2. 和歌山県栄養士会勤労者支援部会研修会	2018年2月10日	大量調理施設衛生管理マニュアル改定について
3. 和歌山県薬剤師会薬業連携推進委員会合同研修会	2017年9月30日	CKDの予防について
4. 田辺保健所職域連携研修会	2017年9月12日	心疾患予防のための健康的な食生活について
5. 全国健康保険協会和歌山県支部減塩教室	2017年9月10日	家庭で出来る減塩方法
6. 和歌山県栄養士会生涯教育	2017年6月17日	集団給食の献立作成と評価・食事管理について
7. 株式会社KL食品衛生研修会	2017年10月10日	ノロウイルス食中毒予防講習会
8. 和歌山県教育委員会教職員免許法認定講習会	2016年8月27日28日	養護教諭に係る実践栄養学、食品学、食品衛生学を講義
9. かつらぎ町立大谷小学校健康教育	2016年7月21日	低学年・高学年で減塩について味覚体験を実施
10. 和歌山県栄養士会生涯教育	2016年5月28日	調理理論をもとにした献立作成について
11. 日本心臓財団「ハートレシピ」開発事業	2016年11月4日	和歌山県の食材を使った四季の献立開発
12. 和歌山県立医科大学同窓会研修会	2016年10月8日	慢性腎臓病に係る食事療法について
13. 和歌山県立医科大学医学部4年生	2012年9月3日	病院給食管理及び入院患者の栄養管理について
14. 甲子園大学栄養学部栄養学科3年生	2012年8月25日	臨床栄養療法に係る実践栄養管理について
15. 和歌山県立医科大学肝疾患支援センター	2012年7月29日	肝疾患に係る食事療法について
16. 滋賀県産業保健推進連絡協議会	2012年5月17日	産業保健師に向けた食事療法と健康づくりについて
17. 三菱樹脂株式会社特定保健指導	2012年1月5日	特定保健対象者の適正飲酒と塩分摂取について
18. 三菱樹脂株式会社特定保健指導	2012年1月5日	特定保健対象者の適正飲酒と塩分摂取について
19. 串本町健康づくり推進員研修会	2011年8月31日	生活習慣病の予防について
20. 甲子園大学栄養学部栄養学科3年生	2011年8月20日	臨床栄養療法に係る実践栄養管理について
21. (一社)和歌山市薬剤師会	2011年4月14日	経腸栄養剤(食品)の特徴と病態別使用法について
22. 三菱樹脂株式会社特定保健指導	2011年10月28日	特定保健指導対象者の食習慣改善について
23. 三菱樹脂株式会社「健康教室」	2011年1月28日	検診結果の基づく「肥満者健康教育」を実施
24. 和歌山県立医科大学医学部4年生	2010年9月6日	病院給食管理及び入院患者の栄養管理について
25. 甲子園大学栄養学部栄養学科3年生	2010年8月28日	臨床栄養療法に係る実践栄養管理について
26. 和歌山県立医科大学保健看護学部1年生	2010年12月15日	腎臓病の食事療法について
27. 国公立大学病院医療技術系職員研修会	2010年10月7日	食の安全と安心、食品保健構想について
28. 甲子園大学栄養学部栄養学科4年生	2009年9月26日	献立作成に係る調味料の配分について
29. 甲子園大学栄養学部栄養学科3年生	2009年8月29日	臨床栄養療法に係る実践栄養管理について
30. 和歌山県立医科大学糖尿病地域連携勉強会	2009年6月11日	食事療法の必要性和食事療法の実際
31. 和歌山県立医科大学保健看護学部3年生	2009年12月16日	腎臓病の食事療法について
32. 和歌山県立医科大学医学部4年生	2009年10月27日	病院給食管理及び入院患者の栄養管理について
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 普通一圧取扱作業主任者	2008年5月30日	日本ボイラー協会第1291号
2. 病態栄養認定管理栄養士	2006年4月1日	日本病態栄養学会認定番号第05-117号
3. 栄養士免許	1979年4月2日	兵庫県第15337号
4. 管理栄養士名簿登録	1979年12月11日	厚生労働省第16272号
2 特許等		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 和歌山県知事表彰 医事功労者	2015年3月18日	高い専門性とチーム医療に貢献した功績による表彰
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. NST介入にて完全経口摂取に移行した急性期妊娠脂肪肝の1例	共	2015年9月	日本病態栄養学会誌 第18巻第3号 387-392	笹野馨代、田中明紀子、前山遥、川村雅夫、古川安志、石田和也、瀧藤克也、島田佳代子、西岡英城、大石千早、松井由樹、中島珠生、武野明香、宮崎由里、西理宏 急性妊娠脂肪肝は妊娠に伴って発症する稀な脂肪肝であるが、症状は激烈で早期診断、治療が行われなければ母児ともに予後不良である。食事療法としては肝機能の状況に応じ低血糖の予防、適切なたんぱく質、脂質（長鎖脂肪酸）の制限を行うことが重要であり、NST介入による栄養管理が有用であった。
2. 高齢者に係る「食べやすさ」への取り組み	単	2015年11月	癒しの環境、Vol.20, No.1 81-83	高齢患者の60%以上が療養をする場所として自宅を望んでいる。しかし、自宅で療養するには栄養量の設定や安全に食事する調理形態が難しい。「食肉・魚肉品質改良剤製剤」使った調理は見た目にも美味しく柔らかく仕上がりが、誰にでも調理でき自宅療養には有効と期待できる。
3. 2型糖尿病患者におけるサルコペニアの実態	共	2015年10月	日本体質医学会雑誌 第77巻3号 155-162	眞城桂、橋本美晴、木村宴子、前山遥、笹野馨代、田中明紀子、川村雅夫、古川安志、西理宏、赤水尚史 2型糖尿病患者のサルコペニアの実態を調査した結果、2型糖尿病患者は地域高齢者に比べて、サルコペニアに陥りやすいこと、女性2型糖尿病の握力と摂食嚥下機能の指標となる舌圧が相関することが示された。また、活発な生活活動や運動を習慣とすることが、サルコペニアの予防とインスリン分泌能の維持に有効である可能性が示唆された。
4. Association between teaching and support skills and subjective of nutritional guidance of registered dietitians at hospitals in Japanese prefecture	共	2014年	Environmental Health and Preventive Medicine Vol.19.,No1.72-80	Akiko Tanaka, Masao Kawamura, Kazuko Yamada, Ikuharu Morioka These results show that, in addition to frequent use of nutritional teaching skills, improvement of support skills is also necessary to enhance the effectiveness of nutritional guidance
5. 食事指導のケンミンショー	単	2013年9月	MC メディカ出版 糖尿病ケアVol 10, Issue9, 888-888 (2013)	和歌山県有田地方の郷土料理「かきまで」の紹介。煮物料理に含まれる砂糖の量に係る糖尿病食事療法に係る注意点について説明。
6. 特集 もしもこんな患者に出会ったら	単	2007年10月	MC メディカ出版 糖尿病ケアVol 4 No.10 P 969-975 (2007)	仕事の付き合いや孫、友人との外出に対し、どの様に対処していくかをアンケート調査に基づき解説。
7. 療養指導士を育てるために	共	2003年9月	診断と治療社 日本糖尿病学会編 糖尿病療養指導士2003療養指導士を育てるために	西理宏、木村りつ子、福戸美代、川村雅夫「生活習慣の指導およびベザフィブラート投与により肝機能改善を認めた非アルコール性脂肪肝合併1型糖尿病患者に係る栄養士の立場からアプローチ。
8. 和歌山県串本町の40歳代女性における食生活の動向	共	1990年3月	甲子園大学紀要栄養学部編 No.18 (A) 59-98	隅倉治子、門寿郎、高橋克智、太野垣敦子、吉田富士、中井康裕、辻下克己、今井正子、川村雅夫 生活環境の多様化に伴い、串本町の中年女性で13%が肥満、ビタミン類の充足率は70%内であった。魚食量は全国値より22.7%高く、対象者の嗜好と地域の特性がよく表れた結果となった。食品群の相関行列では、逆相関より正相関の示す食品群が多く、火事に堪能な中年女性の食生活は、多様な適応性が伺えた。

2 学位論文				
1. 一般市民と糖尿病患者における健康情報入手方法及び生活習慣に係るアンケート調査	単	2008年3月	和歌山県立医科大学医科学研究科 修士論文	糖尿病患者では、テレビの健康情報番組、健康食品の摂取頻度、連日飲酒する者は、一般市民に比べ有意に少なく、糖尿病に関する正しい知識を習得していた。また、糖尿病患者の60%が週一回以上の体重測定を行い、30%が良好な運動習慣をもっており、一般市民より高い結果となった。しかし、継続的な栄養指導等により引き続き正しい知識の普及が必要となった。

3 学術論文				

その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. これからの在宅医療とリハビリ、高齢者に係る食事の問題	単	2012年10月6日	癒しの環境研究会 第12回和歌山全国大会 (和歌山市)	シンポジストとして、和歌山県立医科大学附属病院の「病院給食のやわらか食の取り組み」を紹介

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 肥満を伴った糖尿病の治療	共	2010年1月10日	第13回日本病態栄養学会年次集会（京都市）	メディカルカンファレンスにおいて、「10年間の療養指導にもかかわらず、血糖コントロールが困難な症例」を報告。
2. 学会発表				
1. 災害時の食材備蓄調達に関する施設連携強化	共	2016年9月	第17回和歌山救急・災害医療研究会（紀の川市）	川村雅夫、望月龍馬、田中明紀子、辻稚子、古川安志、西理宏 災害の備えは一施設では負担が大きく、各施設では備蓄食材を公表し、有事の際は相互扶助の精神で対応できる体制整備が必要と結論した。
2. 高性能カロリー自動測定装置の使用経験	共	2012年7月	第80回和歌山医学総会（和歌山市）	川村雅夫、杉浦仁美、笹野馨代、藤田寿美子、東祐美、田中明紀子、中川貴之、西理宏、三家利喜夫 高性能カロリー自動測定装置、カロリーアンサーを使い、当院献立に係る栄養成分の理論値と実測値を比較。理論値との差が小さく、外食料理等を測定するのに有効と判断できた。
3. 糖尿病患者の運動習慣の特徴とHbA1c値	共	2009年7月	第59回日本体質医学会総会（東京）	川村雅夫、佐々木秀行、下村裕子、中野好夫、若崎久生、古田浩人、西理宏、佐々木秀行、三家登喜夫、南條輝志男2型糖尿病患者では、血糖コントロールを重視するあまり、主食の摂取量が少ないことがわかった。
4. Dietary Habit in Type2 Diabetic Patients -A Questionnaire Survey-	共	2008年10月	Second International Symposium on Rice and Disease Prevention (Wakayama)	Masao Kawamura, Masahiro Nisi, Yasuko Kimura, Tomoe Nakano, Yuka Kobayashi, Akina Mori, Noriko Nanjo, Aya Osaki, Hiroko Shimomura, Hideyuki Sasaki, Kishio Nanjo No significant differences were observed between two groups on rice consumption, number of chewing and time need for each meal. Rice may need more chewing and longer eating time than bread
5. 糖尿病患者の体質改善への取り組み	共	2007年9月	第57回日本体質医学会（大分市）	川村雅夫、井藤幸恵、中村友紀、山岡博之、中谷宗幹、小河健一、古田浩人、畑中一浩、西理宏、佐々木秀行、三家登喜夫、南條輝志夫 糖尿病患者は体質改善への取り組みとして、ラジオ体操や歩行運動を行っている者が多いことが判明した。
6. 一般市民と糖尿病患者の食習慣や健康意識に関する比較検討	共	2007年5月	第50回日本糖尿病学会年次学術集会（仙台市）	川村雅夫、井藤幸恵、中村友紀、山岡博之、中谷宗幹、小河健一、古田浩人、畑中一浩、西理宏、佐々木秀行、三家登喜夫、南條輝志夫 和歌山市民と当院通院の2型糖尿病患者に対し、アンケート調査を行い、市民より良好な健康知識が高いが、継続した療養指導の必要性が判明した。
7. NSTが関与した短腸症候群の2症例	共	2007年2月	第2回和歌山栄養療法研究会（和歌山市）	川村雅夫、石亀昌幸、楠山晃子、井藤幸恵、中村友紀、畑中一浩、石井千有季、泉仁美、敷下八重、高橋優子、大石千早、牧野直弘、喜多えり奈、中村真理、蓮臺容子、斉藤喜宣、中山緑、大饗義仁、古川克司、吉益隆、瀧藤克也、南弘一、上田弘樹、西理宏 チーム医療において、大腸がんや腸閉塞等の術後患者に係る栄養管理で、残存小腸を考慮した栄養処方が必要となり、栄養士の積極的な介入が必要との結果になった。
8. 粘度調整食品ペクチン液の使用により難治性下痢が改善し、濃厚流動食での栄養管理が可能となった一例	共	2007年2月	第22回日本経腸栄養学会（松山市）	川村雅夫、井藤幸恵、中村友紀、楠山晃子、畑中一浩、石亀昌幸、西理宏、三家登喜夫、南條輝志夫 PEGを施行するも難治性下痢のため褥瘡が悪化、敗血症も疑われた患者に対し、TPNとPEGを併用、経腸栄養剤にREF-P1 で粘度を調整し、エネルギーを増量、下痢が軽減、以後通常の経腸栄養剤にて栄養管理した成功例を報告。
9. カナダ帰国高齢者の食生活調査（第2報）-栄養と食品摂取状況-	共	1992年8月	第46回日本栄養・食糧学会（岡山市）	隅倉治子、川村雅夫、橋本勉 第38回日本栄養改善学会報告の詳細報告を行い、一連のアメリカ村食生活調査を終了した。
10. 食生活モデル地区調査 -アメリカ村食生活調査-	共	1991年10月	第13回和歌山県公衆衛生大会（和歌山市）	川村雅夫、橋本勉、隅倉治子 帰国者では緑黄色野菜や牛乳・乳製品の摂取量が多く、塩分摂取量が少ないことに着目、食生活モデル地区と位置づけ研究発表。学会奨励賞を受賞。
11. いわゆるアメリカ村高齢者の食文化 -和歌山県日高郡美浜町三尾地区調査-	共	1991年10月	第38回日本栄養改善学会（佐賀市）	隅倉治子、川村雅夫、橋本勉 バンクーバーから帰国した高齢者と管内の農村及び漁村で生活されている住民の食事調査及び健康感の比較検討を行った結果、管内住民に比べ帰国者で塩分摂取量が少なく、緑黄色野菜や乳製品の摂取量が高い事が判明した。
12. 小・中学校の食生活に関する研究 -学校給食のない地域の意識調査-	共	1988年11月	第35回日本栄養学会（岐阜市）	隅倉治子、川村雅夫 学校給食がない串本町内の小中学校での昼食の内容と健康意識調査を実施。インスタントラーメン、菓子パンとジュースを昼食とする児童があり、食教育が必要と結論した。
13. 主婦の健康感と食生活の関連 -農・漁業従事者と自衛隊家族について-	共	1987年10月	第34回日本栄養改善学会（札幌市）	隅倉治子、川村雅夫、新谷祥子 串本町内の農・漁業従事者と航空自衛隊の健康感に対する意識を調査し、航空自衛隊家族に良好な健康観と大手スーパーを中心とした食生活状況があった。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 21世紀に向けたこれからの行政栄養士活動のあり方に関する研究	共	2000年3月	平成11年度地域保健総合推進事業報告書	上畑鉄之丞、木村豊子、本田栄子、久宮フジ、澤口真喜子、府側則子、村澤初子、亀山千枝子、川村雅夫、田中久子、江口澄子、村山和恵、梶本雅俊、須藤紀子 地域保健法が施行され、保健所を中心とした行政機関の改革や再編が進む中で、行政栄養士の進むべき方向として、食品衛生法と栄養改善法を統合した食品保健構想とその業務について主筆。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年6月10日～現在	和歌山県ねんりんピック紀の国わかやま2019実行委員会委員
2. 2014年12月7日～現在	日本栄養改善学会評議員
3. 2013年9月12日開催	第60回日本栄養改善学会学術総会会計幹事
4. 2013年12月～現在	近畿輸液・栄養研究会世話人
5. 2008年6月～2017年6月	和歌山県糖尿病協会会長推薦理事
6. 2008年1月13日～現在	日本病態栄養学会評議員
7. 2006年6月～現在	公益社団法人和歌山県栄養士会理事（2015年から副会長）